



大学コンソーシアム八王子

The Consortium of Universities in Hachioji

令和6年度 大学コンソーシアム八王子

学生企画事業補助金

事業報告書

ビューティーダンスで地域貢献

団体名 山野美容芸術短期大学 ヤマトンベルローズ

代表者名 福崎麗奈 石栗侑衣 住吉美咲

本橋実桜 山本芽生 大橋知佳 野口さらら

① 事業内容

私たち Yamatan-Belle-Rose は、山野美容芸術短期大学にある地域の方々に支えられているローズガーデンを出発点とし、2022年よりローズを介した地域貢献を目指して活動を始めた。今年度は、ローズを通してつながりを広め、さらに地域交流の機会を深めるための運動について検討した。様々な運動がもたらす心身への良い影響についてはすでに明らかにされている。¹⁾そこで、本学の特色である美容とローズをテーマに、エステ×ダンス×音楽によるなじみやすく継続しやすい運動を考案した。様々な運動についての研究はあるが、このエステティックの要素を取り入れたダンスによる身体面及び精神面への影響については少ない。またその効果が地域交流の一因となることで、地域に貢献できるのではないかと考えた。

② 実施報告

近年、誰でも踊れるダンスがSNSで流行している。そこで、山野美容芸術短期大学の特徴を生かし、エステ効果を得られるダンスと、プロジェクトのテーマローズガーデンというキーワードをいれたオリジナル楽曲を制作することにした。まず、楽曲については佐山弘太氏に依頼し、近年注目を浴びているK-popを意識した構成とした。耳に残りやすいキャッチーなフレーズと、ダンス楽曲として踊りやすいリズム感を目指した。また、歌詞については山野美容芸術短期大学の学生が担当した。学生をはじめとする八王子市に住む人々の背中を押すような歌詞にすることで、八王子市を活気づけようとする狙いがある。楽曲完成後はオリジナルダンスの振付制作を行った。エステの要素を追加するために、本学教員の研究や資生堂による表在性筋膜の研究結果²⁾を元に、しわやたるみの予防、改善に効果的な動作を取り入れている。また、全身運動には健康体操としてよく活用されているタオル(タスキ手ぬぐい)を用いた振付も作成した。振付完成後にはYouTube用の動画を撮影し、現在では山野美容芸術短期大学公式YouTubeチャンネルにPVとダンス解説動画の2本がアップロードされている。現在

の活動結果としてはどうか2本の完成に加え、地域での周知のため、NPO フェスティバルでのダンス発表を行った。このイベントの際、ダンスに使用するツールとして八王子型染技法によってバラの型染めの手ぬぐいを制作するワークショップも行い周知に努めた。(いちよう祭りでも発表予定)このダンスによる心身への効果や継続性の検討については、本学教員が行っている地域コミュニティサロンでの「美容講座」にてDVDを教材として実施された。

③ 実施した感想

フェイススケールによる気分の変化と、DVD教材の分かりやすさについて報告する。

1) フェイススケールでは平均2.4気分が上昇し、マイナスは無かった。

2) DVD教材のわかりやすさは、「とても分かりやすい」「わかりやすい」の回答が78%となった。

今回の活動を通してチームワークの重要性を感じた。各々の得意とする分野を通し一つの作品が作成され、それを他の人と共有し楽しむことができたことは貴重な体験となった。今後は、この活動でできたダンスを後輩に継承し、地域の方々への活動へ生かしていきたい。

謝辞

このプロジェクトを進めるにあたり、このような機会とご意見を頂きました大学コンソーシアム八王子に関係される先生および職員の方々、作曲の佐山弘太先生、ダンスの監修の早坂菜摘先生、アンケート等にご協力頂きました地域の方々に、心より感謝申し上げます。

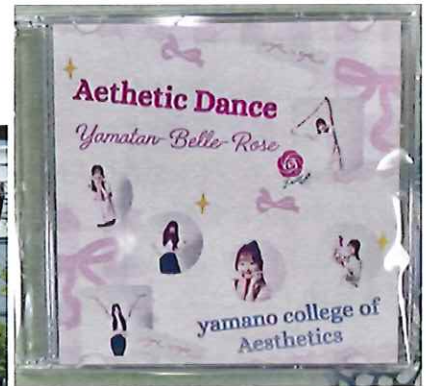
参考文献

- 1) 永松俊哉「ポジティブ脳に切り替えるストレッチ うつ不安に克つテクニック」メディカルトリビューン 2014
- 2) 「資生堂、世界で初めて表在性筋膜の加齢変化を定量化」2022年6月17日、株式会社資生堂

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000市00003422> 2024年9月13日閲覧



DVD 教材およびYouTube 動画



NPO フェスティバル および
いちよう祭りでの活動

世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2024

団体名 多摩大学梅澤佳子ホームゼミナール4年
メンバー ○雨宮永大、大串慶斗、近藤直希、清水寛太、鈴木達也、徳常生吹、酉田凌馬

① 事業内容

本事業は八王子市高齢者あんしん相談センター旭町（以下、センター）、八王子市民生委員児童委員協議会第4地区民生委員（以下、民生委員）、有志と学生が協働して駅前という特徴を活かした高齢者サロンの運営を行うものである。プロジェクトは「世代間交流」をキーワードに高齢者の健康寿命の一助となることを目的とし、高齢者が自然体でゆったりと過ごすことができる「みんなのゆったりサロン」を心がけている。サロンは2016年より4年間で36回運営してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年2月から一時休止となった。そこでオンラインによる高齢者サロンの仕組みづくりを2年かけて進めた。2022年7月からはコロナ対策を徹底し、完全対面に戻した。サロンは2025年1月に第67回を実施した。※これまでの事業の詳細については、2016年から2023年までの「学生企画事業補助金事業報告書」をご参照いただきたい。

② 実施報告

ア. 駅前サロンの企画・運営について

駅前サロン（以下、サロン）は9年間ゼミ内で引き継ぎながら、参加者や連携団体の声を聞き、より良いサロンを目指して活動を行ってきた。サロン終了時にスタッフミーティングを行い、そこで出た課題や修正点を議事録にまとめ、翌週のゼミで全体に共有し議論を重ね、次回のサロンに向けて準備を進めた。（ゼミの合言葉は「段取り八分仕事二分」）

今年度は「ご歓談の時間」の見直し、「学生の近況を紹介するコーナー」の新設を行った。「ご歓談の時間」については、決まった人が多く話

してしまい、他の参加者が話せないという課題があった。この課題を解決するために、グループ分けを行い、学生が決めたテーマで1人が話す時間を決めたことで、全員が発言し、公平に楽しく歓談するように工夫した。「学生の近況を紹介するコーナー」は、参加者から「今どきの学生の就活や学生生活、アルバイトなどについて知りたい」という要望を複数いただいたことから始めた新しい取り組みである。ゼミ生全員が4年生であることから就職活動体験記や将来の夢、アルバイト事情など話す内容は、ゼミ生によって様々である。このコーナーは参加者に大好評である。「学生生活動画」の深化版である。このコーナーが後に続くご歓談の時の話題の切り口になり、参加者から社会人としての心構えなど多岐にわたるアドバイスをいただいている。歓談の中身がより深いものになっている。

加えて進行方法でも努力したことがある。それは、参加者と双方向での会話を意識したことである。進行を行うにあたって、参加者に発言を呼びかけた。この取り組みにより参加者も運営に参加することになり、サロンの「場」に一体感が生まれた。レクリエーションや合唱、体操も好評であり継続して行っている。

第66回（12月）のサロンでは、「学生企画事業補助金」採択団体「Light Bulb」様から依頼を受け、薬学教育「ポリファーマシーと湿布薬」について紹介する時間を設け協力した。参加者の方々から多くの質問が寄せられた。

イ. 世代間交流スマホ何でも相談会について

サロン開催時にスマートフォンや携帯電話の使用方法について質問を受けることが多々

ある。サロン内では対応が難しいため、昨年度から「世代間交流×スマホ何でも相談会」を開催してきた。目的は高齢者の困っていることを解決すること、スマホを安心・安全に使用してもらうこと、情報格差をなくすことである。今年度は1回開催した。

1人20分～30分程度の時間かけ、マンツーマンで相談や質問にできる限り応えた。自宅に戻って何度でも見直し、1人で解決できるように質問と解決方法を記載した紙を作成し手渡ししている。質問は些細なものが多く、有料サービスが要るものではないため、学生が対応する価値があると考え。また、世代間交流の場を設け、学生との交流を楽しんで頂いている。

今年度は八王子学園都市大学様からいちょう塾受講生を対象にしたスマホ教室の依頼を受け12月2日・13日に実施した。目的はいちょう塾のサイトの登録をサポートすることであったが、参加対象者の条件を広げ、さらにスマホに関する相談も受け付けた。

③ 事業を実施した感想

ア. 世代間交流八王子駅前サロン

今年度は4年7名と限られた人数の中で2つの事業に真剣に取り組むことができた。人数が少ないことでこれまで以上にサロンに参加し、参加者と交流する場、時間を増やすことができた。次第に距離が縮まり、親密になったことでゼミ生の名前や趣味を覚えてくださり、ハイタッチや握手などのスキンシップが増えていった。私たちも参加者を楽しませたいという気持ちがより一層強くなり、事前準備において細部まで拘るようになった。その結果、当初の目的は「ゆったりサロン」であった筈が、全員参加の大盛況サロンになっている。連携団体の皆様からは、毎回、お褒めの言葉を頂いている。

私たち学生のコミュニケーションは、SNSの普及やデジタル技術の進歩により、オンライン上のやり取りが大半となっている。当初、異世

代の参加者と対面で直接会話することには、なかなか慣れなかった。しかし今は楽しみになっている。対面で直接会話をするのは誰かの支えになり、人々に喜びを与えるのだと学ぶことができた。

この活動を通じて、多世代で交流でき、お互いに気兼ねなく、相談や話しができる場を地域にもっと増やすべきであると考えようになった。ちょっとした繋がり、ささやかな互助が日常を安心感のあるものにし、喜びあるものにするのだと感じた。

イ. 世代間交流×スマホなんでも相談会

この活動を通して気づいたこととして、高齢者の悩みを解決するためには1対1の丁寧な対応が必要である。例えば「スクロール」という指の使い方など私たちが当たり前に行っている用語が理解されないことがあり、その都度言い換えや分かりやすい言葉に変えて説明を行っている。相談内容などから高齢者を狙った詐欺が横行していること、そのような状況の中で日々緊張した生活を送っていることがわかった。キャッシュレスのため、ポイントのためと言われ多くのアプリをインストールし、使いこなさなければならない現状は、高齢者にとって大きなストレスになっている。果たしてスマホに慣れない高齢者に利用を進めることがよいのだろうか。今は社会の方が、スマホを使いこなせない高齢者側に寄り添い応じるほうが良いのではないかと考える。いずれにしても学生が高齢者の力になれることは多い。

謝辞

長年にわたり本プロジェクトにご協力頂きました八王子市高齢者あんしん相談センター一旭町様、八王子市民生委員児童委員協議会第4地区民生委員様、有志の皆様に深謝申し上げます。また、9年間ご支援いただきました大学コンソーシアム八王子の皆様にも心よりお礼申し上げます。

ロボット教室 2024 in サレジオ

団体名 サレジオ高専 機械電子工学科 学科プロジェクト

代表者名 竹堂 颯真

① 事業内容

未就学児、小学生を中心にロボット製作を通して、工学・ものづくりに興味を持っていただくことを目的とし、簡単なロボット製作体験を提供する。はんだごてなどの特別な器具は用いずに組み立てができるため怪我のリスクを最小限にできる。製作するロボットは、電池、モータ、土台、おもり、ブラシ、コントローラで構成されている。動作原理として、ロボット土台に取り付けられたモータが回転することで、機体が振動して前進する。また、コントローラを用いて前進、右、左の3方向へ制御が可能である。怪我のリスクを最小限にするため、ロボットに装飾を施すことを可能とし、個々にオリジナル機体を作成してもらう。

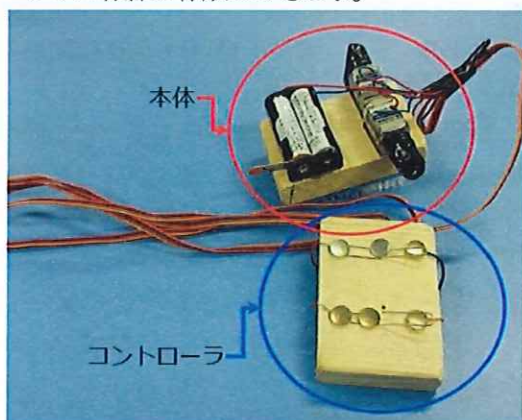


図1 講座にて製作してもらったロボット

トルの障害物を設置することで解決した。

1日の受講者数は36名であった。



図2 ハードオフ八王子大和田店での開講風景



図3 制作したロボットで遊ぶ様子

② 実施報告

1. イベント出店報告

イ) ハードオフ八王子大和田店

7月7日に株式会社ゼロエミッション様ご協力のもと、ハードオフ八王子大和田店にて開講した。炎天下の中、屋外での開講であったが、指導者、参加者ともに十分な熱中症対策と休憩をし、無事終えることができた。また、前年度の課題であった製作後のロボットで遊ぶスペースの確保について木製の板を持参し、ペットボ

ロ) 体験!発見!学園都市 はちおうじ

8月24、25日に八王子学生委員会様及び八王子OPA様ご協力のもと、八王子OPA内にて開講した。開講場所が駅隣接の商業施設であったために、子供が興味を持って時間都合上参加できない例が散見された。開講中、「受講はできないが、部品を持ち帰り、チャレンジしたい」と問い合わせがあり、部品・手順書を提供することで対応した。

2日間の受講者数は16名であった。

ハ) サレジオ高専 育英祭

10月26、27日に本学の学園祭である「育英祭」にて開講した。来年度引継ぎも兼ねて2、3年を中心に受講者に対する指導を行い、4、5年はサポートを行った。例年、電気で動くミニSL、電気バイク、電気バギーと共に出店していたが、学校判断により今年度は本講座と大型イライラ棒のみでの出店となった。電気で動く乗り物はものづくりの楽しさ発信の広告塔となり、本講座受講の1つのきっかけとなっていたが、運行できなかった。これも1つの要因となり、例年より受講者数は減少してしまった。

2日間の受講者数は32名であった。

ニ) 八王子いちよう祭り

11月16、17日に八王子いちよう祭りにて開講した。ほぼ毎年出店しており、講座受講のためにお越しになる方もいらっしゃった。

2日間の受講者数は42人であった。



図4 いちよう祭りでの開講風景

2. 改善点

イ) ブラシ調整方法の最適化

昨年度までブラシの最終調整はベルトサンダーと呼ばれる電動やすりで行っていた。摩擦熱によりブラシが溶ける、機械の回転に巻き込まれる、100V電源が必要である等リスクやデメリットがあった。そこで、ブラシの最終調整に充電式電動バリカンを導入した。前述したデメリットを克服するのみならず、熟練度による加工精度のばらつきが生じなくなったことで今まで以上に仕上がりがきれいになった。

ロ) 推進力の向上

ブラシの加工精度やモータ、電池の個体差によって各機体の推進力に差が生じていた。そこで、モータの軸に張り付けるおもりを調整することでより振動を増加させ、結果的に推進力向上につながった。

③ 事業を実施した感想

今後子供たちに工学とものづくりの楽しさを伝えていかなくてはならない。そのためには手段を問わず、こういったものづくり体験ができる機会を提供していく必要があると感じた。現状では事業者や公共機関から要望を受け、教員、学生の予定が合う場合に開講としている。今の状態では自ら開催場所を求めるわけではなく、受け身の状態となっている。また、学校の規則に基づき学外でのプロジェクト活動は顧問の同伴が必須となっている。これら踏まえ、ものづくりの楽しさをより多くの子供に発信すべく更なる受講者を獲得するためには、例えば、キットを自宅に送付し、オンライン上で講座を開講するなど新しい形での製作体験教室が必要と感じた。

また、開講中混みあう時間と空きが出る時間の差が激しかった。これによって座席に空きがなく受講をあきらめる親子が居た。今年度ハードオフ八王子大和田店にて企業様が予約システムを活用していただいた際には参加者の待ち時間を抑え、指導者側のタイムスケジュールが見える化できた。我々自身で予約システムを導入し、混みと空きの平滑化が必要と感じられた。

最後に、事業にご協力、ご尽力いただいた大学コンソーシアム八王子の皆様、株式会社ゼロエミッション様、八王子OPA様、八王子学生委員会の皆様、八王子いちよう祭り祭典委員会様、本プロジェクトメンバーおよび顧問である米盛先生にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

薬学教育事業

団体名：東京薬科大学 Light Bulb

代表者名：白井 優希

① 事業内容

Light Bulbは薬学の面白さを様々な人に知ってもらおう事を目的として2022年に東京薬科大学の学生により設立された団体である。実際2022年度からさまざまなイベントを通して薬に関して興味のある人々(大人、子供)がたくさんいるという事を学んだ。昨年までは主に埼玉県所沢市で活動をする機会が多かったが実際に大学のある八王子市の方々と一緒に何か活動ができなにかと考えて今回参加するに至った。薬学部では、薬が体内でどのように働くか・どうやって薬が作られているのかという座学を学ぶほかに、4年生になると実務事前実習(調剤に関して学ぶ実習)を行う。そのためLight Bulbではイベントとして、くすりについての知識を話す「お薬解説」・実際に薬剤師がどのようにして調剤をしているのかを体験してもらおう「調剤体験」を行っている。

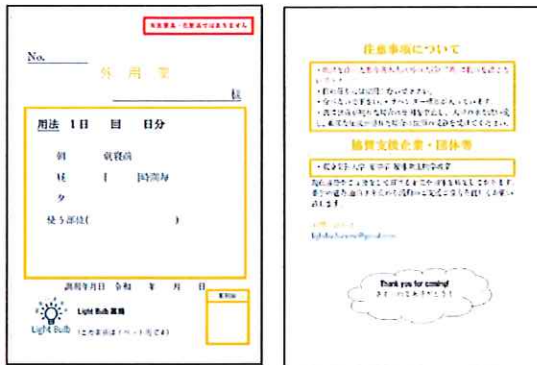


ところティーンズフェスティバルの様子
(2023年3月12日)
上「お薬解説」下「軟膏調剤体験」

② 実施報告

Light Bulbは2025年1月30日木曜日に八王子市立由木児童館で軟膏調剤体験イベントを行った。また、2024年7月12日に行われた採択式の際に多摩大学さんにお声掛けさせていただき2024年12月19日木曜日に実施された世代間交流八王子駅前サロンに参加させていただいた。1月30日に実施した軟膏調剤体験では、セタフィル(クリーム)とワセリン(軟膏)を軟膏板と軟膏へらを用いて調剤(混合)して約壺に詰めてもらうというイベントを行った。実際に薬局に来た気持ちを味わってもらうためにLight Bulbオリジナルの薬袋と処方箋を作成して処方箋の説明から、薬袋に薬剤師の指名(軟膏調剤体験をしてもらった方のお名前)を書くところまで実際に体験してもらった。小学生の子に加え児童館の職員の方々がイベントに参加してくれた。小学生の子のもほとんどみんな処方箋の存在を知っていて実際に薬局に薬を貰いに行ったことがある子供が多かった。またみんな実際に薬剤師が軟膏を調剤する際に使用している軟膏版に興味を持ってとても楽しそうに体験してくれた。また参加して下さった方それぞれ、どうやったら上手に2種の薬剤を軟膏へらで混合することが出来るのかを考え調剤体験を行ってくれた。実際に軟膏調剤体験を通して薬剤師が患者さんに薬を手渡す際に何を行っているのかという事、疑義紹介とは何か、なんで薬を患者さんに届けるのに時間がかかってしまうのかという事をきちんと説明することが出来てとてもよかった。また、実際の現場の様子について興味を持って質問をして下さった方も多くいてイベントを企画して良かったと改め

て思うことが出来た。



Light Bulb オリジナルの薬袋(表・裏)



軟膏調剤体験に用いた器具

12月19日に参加させていただいた世代間八王子駅前サロンでは「ポリファーマシーとは何か」・「湿布薬」とは何かという事をテーマとしてプレゼンテーションを行った。今回ポリファーマシーをテーマに選んだのは八王子駅前サロンの対象者である高齢者の方々は1日に何種類もの薬を服用しているため薬の副作用のリスクも増加するためである。湿布薬に関しては私が今期に学習した知識を活かした発表をしようと考え選んだ。

八王子駅前サロンに参加して下さった方々は私を薬のスペシャリストとして扱って下さり、じっくり真剣に話を聴いて下さった。大きく相槌をうちながら話を聴いて下さった方が多くいた。また中には事前に準備をしてお薬手帳を持参して下さり質問をしてくださる方もいた。Light Bulbの発表とても楽しみにしてくださっている方がいるという事がとても嬉しかった。

薬処方の流れ

この時薬剤師が服薬指導の際に確認すること

処方材料

痛みを止める薬 (ロキソプロフェン)
ロキソプロフェンの胃潰瘍の副作用を止める薬 (レバミピド)

副作用

痛みを止める薬 (ロキソプロフェン)
抗酸薬 (クラリスロマイシン)

内服

食後薬を飲む薬 (ランソプラゾール)

ドラッグストア(個人で購入)

調剤薬 (イブプロフェン、アセトアミノフェン)

想定される流れ【投薬カウンター】

- ①処方調剤に関する確認
- ②調剤の状況確認(薬剤性肺病の確認)
- ③病の病みの程度(ロキソプロフェンの多量による胃潰瘍の恐れ確認→必要であれば医師に追加連絡)
- ④腎機能の確認(悪ければロキソプロフェンからアセトアミノフェンに変更)

【薬の代調の恐れを把握している薬剤師ならではの】

今回は上記のように具体例として患者 A さんが服用している薬を具体的に挙げて説明をしました。

③ 事業を実施した感想

今回 2 つのイベントを通して 1 番強く感じたのは、私達は学生ではなく薬学の専門家をして皆さんが接して下さっているという事である。大学では周りみんなが薬について学習をしているため自分の発言に対して責任を持つという考えがなかったが今回自分が薬学生である状況にたち、自分の発言にもっと責任を持たないといけないという事を強く痛感した。今後活動をしていく際は自分の発言にしっかりと責任が持てるように様々な文献を活用して資料を作ったり、より大学で詳しく学ぶことが大切であると知った。12 がつイベントでは軟膏調剤体験のみを行ったがこれからは経口投与薬の調剤に関するイベントを行ったり疑義紹介を実際に体験してもらったりとイベントの幅を広げていきたいと考える。また、今までは児童館をメインで活動してきたが子供だけでなく大人の方もメインにしたイベントを開催させたい。また、お薬解説も今問題になっていることをテーマに挙げてもっと多くの方々に興味を持ってもらえるような内容を考えて行きたいと思う。



デジタルメディアとリアルイベントが交錯する八王子聖地巡礼ゲーム

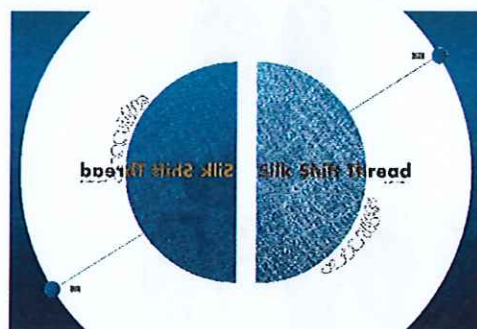
団体名 東京造形大学 東京造形大学MD
代表者名 高筒玲衣

① 事業内容

八王子市を舞台にしたデジタルゲームの制作とそのゲーム内のキーワードを手掛かりに八王子市内に出かけて探索する謎解きイベントを開催する。謎解きイベントにはデジタルゲームに登場するキャラクターや世界観の要素が多く含まれており、ゲームをプレイしていなくてもイベント自体は楽しめるが、ゲームの内容を知っているとよりイベントを楽しめる。

八王子市が学園都市であることから、八王子市内に通学する学生をターゲットにし、学外の八王子市内の良さを知るきっかけづくりを目指す。

それらを使い広報用のポスターを制作。(下図上2枚が全体、下がゲーム用)



② 実施報告

デジタルゲームの大まかなシナリオ設定を考案後、ステージとする八王子のエリアを選定。(下図)

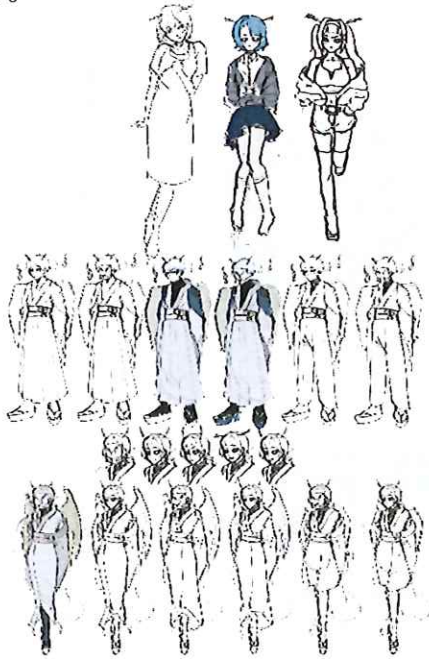


主人公、ヒロインのキャラクターデザイン及び敵キャラのデザインを制作し現在他のキャラクターデザインも制作中。(下図)

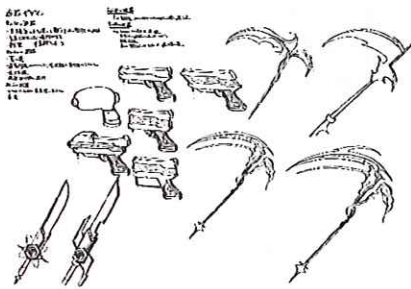
八王子駅や高尾駅、夢美術館や相原駅などシナリオに登場する場所の現地調査、Google フォームによるアンケート調査、インターネットや文献で調査しシナリオを制作。全15話でプロローグ、エピローグ共に執筆済み。また、プロジェクト全体のメインビジュアルとゲームのメインビジュアルを制作。



リアルイベントに関しては、制作の都合上プレイベントに変更しこの先行う本格的なイベントに向けて、参加者の声をきき、段取りや改善点を洗い出した。場所の確保、印刷、テントの依頼等の庶務的な部分も行った。夏ごろに高尾、八王子へとそれぞれ調査に出向き謎解きの謎を制作。イベントにて使用する謎がかかれたリーフレットと景品を12月～1月にかけて制作した。また、この先行うイベントに関しては設営デザイン済み。



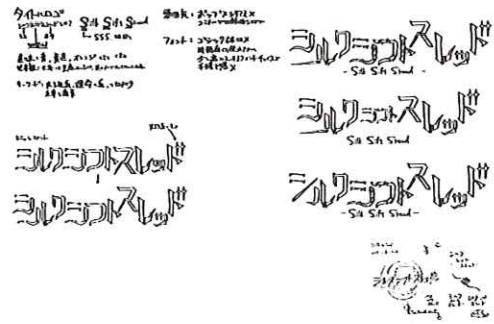
敵キャラクターデザイン



武器デザイン



主要キャラデザイン



タイトルロゴ案

③ 事業を実施した感想

想像していたよりも事業の進行に難航してしまい、当初の予定通りいかないことが多くあった。その都度もう少し早めに対応していくべきだったと反省している。デジタルゲームに関しては4月には必ず公開できるよう力を入れて制作を進めていく。また、リアルイベントに関しては制作した謎が難しいという声が多かったため、難易度も含めこれから更にブラッシュアップしていきたいと考えている。



1/19 高尾山口駅前の設営



1/26 クリエイトホールでの様子



景品・リーフレット

間伐材再利用プロジェクト

団体名 多摩美術大学 studioJACA

代表者名 伊藤恵理菜

①事業内容

長池公園に保管されている間伐材を利活用しながら、地域の子どもたちが自然や美術に触れることができるイベントを開催。

当日のイベントを「出張芸術祭」と題することで、地域の方に親しみやすい「祭」「イベント」と認識してもらえるよう企画した。

studioJACAのアニメーションスタジオとしての強みを活かし、当日はアニメーション上映会も開催し、地域の方に楽しんでもらうとともに、学生の発表の場を提供することも目的とした。

②実施報告

本事業を実施するにあたり、事前に近隣の小学校5校の全校生徒にチラシ約1800枚を配布。近隣のマンションにも音が響くかもしれない旨のご挨拶と、チラシでの宣伝を行った。

1月12日、イベントを開催することができた。当日朝雨が降りそうだと判断し、長池公園自然館室内、工作室で開催することとした。



晴天の場合、自然館外の姿池付近に屋台やお囃子を設置、室内では上映会のみを開催する予定だったが、今回は工作室内に屋台と上映会場

を併設した。屋台は5店舗設置する予定だったが、工作室の大きさに合わせて4店舗に規模を縮小。



外での呼び込みの様子

室内だけの開催は人の呼び込みが難しい。雨が降りそうだったのは朝だけで、昼からは晴れてきていた。そのため、キッチンカー3台も長池公園内に来ていただくことができた。キッチンカー前を中心に、多摩美ジャンベ部の民族楽器（打楽器）と、ポータブル電源を使用した電子キーボードで笛のような音を奏でながら公園内を周回、公園内の方々にチラシを配布し、自然館で開催していることを宣伝した。

4店舗の屋台は、釣り・占い・お面とブンブンごまワークショップを設置。それぞれ間伐材を使用した装飾や道具を制作、1回200円で体験とお菓子を提供した。



釣りの様子 釣竿に長池公園の枝を使用



占いの様子 くじ引きの棒・装飾に間伐材を使用



イベントのチラシ

当日、2回上映会を行い、多くの方に見ていただいた。上映会が気になって自然館に来た方に、屋台に寄っていただくことができたのは、室内開催の利点だった。



上映会の様子 多くの方に来ていただいた。

③事業を実施した感想

まず反省点として、公園の入り口からイベント実施場所である自然館まで距離があることで、集客が難しくなっていた。急遽室内開催に変更になったことで集客まで考えられず、公園内にいる人全てにこの事業を知ってもらうことはできなかった。

今回、去年と違う点としてもう一つ、上映会の開催があった。来場者の方々からかなり好評だったため、今後もアニメーション上映会は続けていく予定だ。

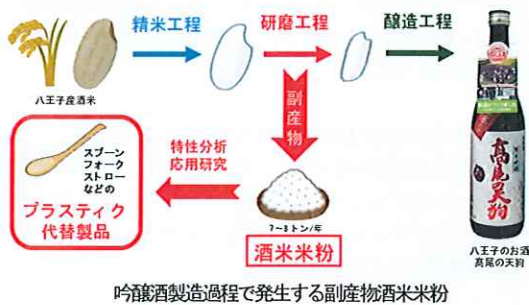
屋外で開催できなかったことが心残りではあるが、去年と違う内容で実施したことで、またひとつ前に進むことができたと考えている。

来年も何らかの形で開催したい。

八王子産酒米米粉を利用した地域密着型オリジナル製品の商品化

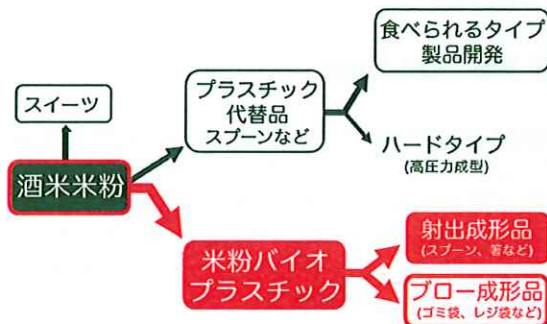
団体名 創価大学 理工学部 丸田ゼミ
 代表者名 徳田 小春

① 事業内容

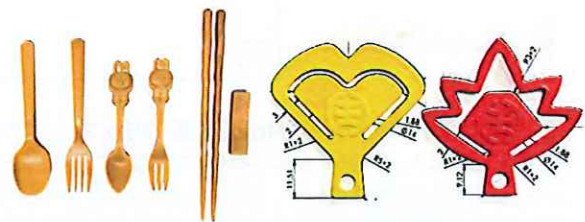


私達のゼミでは、これまでに八王子の地域活性化を目的として、八王子特産米である高月清流米を利用した米粉湯種パンやチョコブラウニーなどの加工食品を開発する事業を行ってきました。そして、大学コンソーシアム八王子が主催する様々な企画やイベントへの参加がきっかけとなり、多くの企業、団体と連携することができました。その中で“NPO 法人はちぶろ”（八王子産高月清流米の日本酒“高尾の天狗”による町おこしプロジェクト）と連携して、日本酒製造過程で発生する活用されていない副産物の米粉を有効利用した加工製品を開発する事業を開始しました。

これまでに酒米米粉デンプンの特性分析を行い、米粉の特性に適したしっとり系のスイーツや食べられるスプーンを試作することができました。さらに、企業との連携による情報収集と分析を進めた結果、バイオプラスチックの素材として優れていることを確認しました。そして、バイオプラスチック企業と連携して八王子産米粉のバイオプラスチック素材を開発して、これを利用した米粉バイオプラスチックの成型が可能である事を明らかにしました。そして、射出成形品としてスプーンなどのカトラリーやノベルティーとしてのクリップを試作しました。



さらに、インフレーション成形製品として、米率 20%の米粉バイオマスプラスチックのゴミ袋の試作を行いました。



米率51%バイオプラスチックの射出成形試作製品

本事業の目的は、この米粉をバイオマスとして捉え、これを有効活用するために地域企業と連携して地域密着型の米粉オリジナル製品を開発し、これらを商品化することです。これにより、八王子の地域活性化と食品ロス、プラスチック環境問題の解決、SDGs に貢献することを目指します。

② 実施報告

1 米粉バイオマス加工製品の開発と商品化

これまでに試作に成功している地域密着型米粉加工製品を企業と連携して、具体的に商品化できる品質の製品を開発することができました。そして、商品化に向けた調査のためにイベントや地域の飲食店・小売店での試供を実施しました。

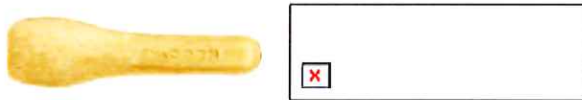
1-1 地域密着型米粉食べられるスプーン製品

八王子南大沢の社会福祉法人いちょうの会・いちょう工房ゆぎとの連携して試作に成功している米粉の含有率の高い“食べられるスプーン”(大きいサイズ)の商品化に向けて賞味期限検査を受けて、最低でも3週間は大丈夫である結果が得られました。こちらは、大量生産ができないため、いちょう工房ゆぎの店舗の他に八王子市の小規模小売店やイベントでの少数販売への利用を次年度に向けて実施を計画しています。

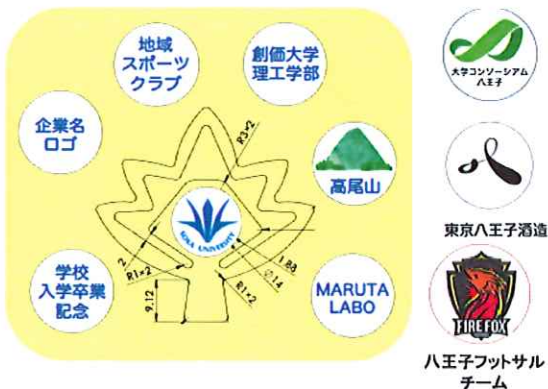


1-2 量産化用米粉食べられるスプーン製品

八王子学校給食での提供や地域小売店での販売を視野に大量生産可能な八王子産米粉を使用した“食べられるスプーン”(小型版)を(株)勤労食と連携して開発を行いました。米粉含有量の異なる幾つかの試作品を試した結果、量産化する含有量の上限は10%であることがわかりました。そして、賞味期限検査を行い、まず、3ヶ月の賞味期限の米粉食べられるスプーンを1,000本調製することができました。その後、賞味期限の加速検査を実施することにより、賞味期限1年の個包装の製品を製造することができました。また、成分表示など製品化に必要な情報が入った責任表シールも完成しており、具体的に商品化できる段階に到達できました。



2 米粉バイオプラスチック射出成形品・クリップこれまでに、八王子市章の入った米粉51%バイオマスプラスチックのイチョウとモミジのクリップを作成しています。このクリップをベースに、さまざまなロゴを印刷したシールを貼ったクリップの商品化を試みました。金型を用いてロゴを入れる場合、費用と時間がかかるため効率的ではありません。そこで安価で短時間に、様々なロゴ入りクリップを作成するために、ロゴを印刷したシールを貼るタイプのクリップを考案しました。さらに、海外からの高尾山観光客をターゲットにしたデザインシールのアクセサリクリップの開発も試みました。



3. 事業のイベントでの広報活動

3-1. 学生天国(5/12)

八王子ユーロードで開催された学生天国において、学生企画事業内容の広報活動そしてオリジナル製品の試作品の試供を行いました。

3-2. 日本社会福祉教育学会第20回大会シンポジウム(9/7)丸田ゼミの学生が行なっている地域の活性化とSDGsへの寄与のために行なっている本年度の大学コンソーシアム八王子学生企画事業の活動をシンポジウムで紹介しました。

3-3. 桑の日ウェルフェス(9/8)

えきまえテラスで開催された桑の日ウェルフェスにおいてゼミの取り組みの紹介とこれまでに開発したスプーンなどカトラリー製品やバイオマスプラスチックのクリップの試供を行いました。

3-4. OPA × 八王子学生委員会コラボイベント(8/24-25)

オーパにおいてオリジナルシールの51%バイオマスプラスチックのイチョウとモミジのクリップの試供を行いました。

3-5. 八王子いちよう祭り(11/16-17)

いちよう祭りで、事業のプレゼンと開発した米粉バイオマスプラスチックのクリップ、ゴミ袋そして食べられるスプーンの試供を行いました。そして商品化に向けたアンケート調査を行いました。市民の皆様から、高い支持が得られました。

3-6. ケイハチクリスマスマーケット(12/8)

東京たま未来メッセにおいて開催されたケイハチクリスマスマーケットのエシカル消費のブースで、食べられるスプーンとオリジナルシールの米粉バイオマスプラスチックの試供と事業説明を行いました。

3-7. 大学コンソーシアム八王子学生発表会(12/8)

八王子市長へ直接提案セッションにおいて、本年度の事業で開発した食べられるスプーンの利用の八王子市給食での利用の提案を行い最優秀賞を受賞することができました。

3-8. 道の駅での展示・試供(2024/1/30)道の駅において

米粉食べられるスプーンの試供とアンケート調査を行いました。また、道の駅内のミルクアイスMO-MOにおいて、ソフトクリーム、ジェラートに付けて試供をしていただけることになりました。

4. まとめ

本年度の事業により具体的に商品化できるレベルの米粉加工製品の開発を行うことができました。また、地域の小売店や飲食店などから具体的な商品としての可能性の話をいただきました。また、学生発表会での提案により、八王子市学校給食での可能性も出てきました。そこで、次年度に向けて八王子市での具体的な開発製品の利用を実施していきたいと思っております。

③ 事業を実施した感想

地域の方々に“SDGs”や“フードロス”といったワードに対して、より関心を持っていただけた1年でした。また、活動を通して様々なご意見・ご感想をいただき、私たちには何ができるのかをよく考えた1年でもあったと感じています。この活動から得られたことを来年度以降のゼミ生に引き継ぎ、地域の方とともにこの活動を発展させていってほしいです。

地域住民の食環境改善のための中食を利用した取り組み

団体名 三澤ゼミナール 食育研究会
代表者名 大和地 悠

1 事業内容

本研究事業では、自然と健康的な食行動がとれるきっかけが必要なことを背景とし、食環境整備に繋がる中食の開発と栄養関連情報の提供による食選択能力の向上を図ることを目的とした。八王子市に所在するたてキッチンさくらと連携し開発を行った。たてキッチンさくらで販売されている中食や従業員、利用者の意見を参考に「オムロール」を制作し販売した。栄養関連情報として4種類のPOPを制作し掲載をした。

2 実績報告

レシピ提供にあたり従業員の方や利用者の方から「彩りが良く、食べやすいものがよい」、「今までにないものがあると嬉しい」という意見を頂き、前年度開発した「オムもぐプレート」のオムライスをアレンジし、おにぎりの様に1つにまとめた「オムロール」を制作した。試食の結果は好評で、館ヶ丘団地で行われた秋祭りで「オムロール」の販売を行い完売する事ができた。消費者が店に並んだ際の待ち時間を利用し「スマートミールとは」、「春夏秋冬の季節野菜」、「硬めの柿がサラダに!」、「秋の代表さんま」の4種類のPOPを制作し掲示をした。団地住民の多くは高齢者の為、普段から資料作成している従業員の方の意見を頂きながら、見やすさを意識して作成した。具体的には、文字の大きさを大きくし文章を簡潔にまとめ、イラストを多く使う事で目に留まる様なデザインにした。さらに、POPの中で取り上げた1日の食塩相当量を文章だけではなく、実際に塩を3g袋に入れて可視化することで、文章だけでは理解が難しい点をわかりやすく掲示した。消費者等にアンケート調査の実施予定だったが、大学内での倫理審査を通すのに時間を要してしまう為、従業員への聞き取りに変更した。

3 事業を実施した感想（実施した者として、どのように感じて、今後どのようにしたいのか）

自然と健康的な食行動がとれるきっかけが必要なことを背景とし食環境整備に繋がる中食の開発と販売、栄養関連情報の提供をすることが出来た。秋祭りでは「冷めても美味しい」、「食べやすい」、「子供も大人も喜ぶ味の良さで見た目も良い」という感想をいただいた時は嬉しかった。館ヶ丘団地住民の多くが高齢者の為、POP作成では文字の大きさやイラストの活用、専門用語を誰でも分かる様にかみ砕き、見やすく分かりやすい資料作成の難しさを学んだ。今回は情報提供のみで理解度調査等を行うことが出来なかった。理解度調査のアンケートを実施した後、より分かりやすい栄養関連情報等を提供したい。



開発した「オムロール」

硬めの柿がサラダに！



用意するのは
柿とかぶ！

味付けは
酢・砂糖・塩・（オリーブオイル）で
さっぱりと

マヨネーズ・レモン汁・粒マスタード・生
ハム
などとも相性抜群です★

掲載したポスター①

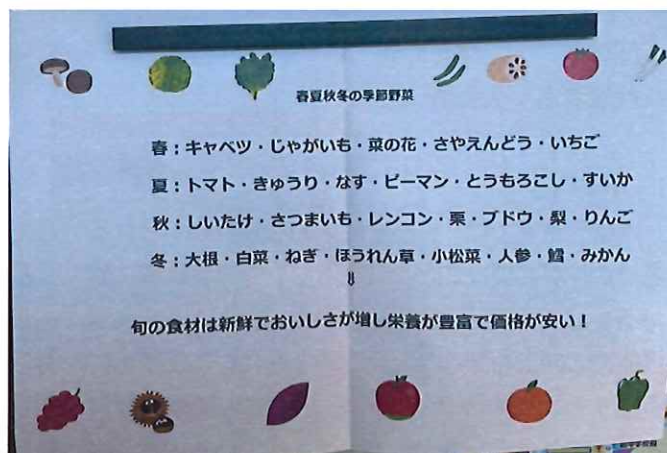
秋の代表 サンマ

サンマに含まれる...

- ・DHAとEPAが
中性脂肪や**コレステロール**
を減少
- ・カルシウムとビタミンDが
骨粗鬆症の予防に

季節を感じながら健康になろう

掲載したポスター②



掲載したポスター③



掲載したポスター④

ローズガーデンエンジョイプロジェクト

～バラ園×八王子市の文化資源を融合させた地域活性プロジェクト～

団体名 山野美容芸術短期大学 Yamatan-belle-rose
山際花野 坂倉雛乃 森谷美紅 森田夏海 山本芽生
野口さらら 熊谷梨子 田村倅望 大橋知佳

① 事業内容

本学には、地域住民の方々に支えられているローズガーデンが2020年に完成し、現在では春と秋にとっても美しい花を楽しむことができる。八王子市の個人邸には、広い庭を活用したローズガーデンが多くみられる。私たちは、これらのガーデンの一部を紹介するローズマップを作製し、また美容とローズをテーマにした活動（ローズについての小冊子の作成やワークショップ等）、地域企業との協働での企画等を行い、地域活性を目指している。昨年この事業をさらに充実させるための本アンケートを行い、その結果をもとに今回企画を進めた。また本学の特徴的な学びとして、着付けや華道、裏千家道場であった茶室を利用した茶道等の日本の伝統の美意識を学ぶ「美道」やインナービューティーがある。バラと美容の関係はインナービューティーと親和性が高く、それに加え、桑都八王子の「美」の文化資源と「美道」の親和性も高いと考え、バラに加えて伝統美の融合も視野に入れた活動を行った。多様な方向性からバラをモチーフとすることで、さらに多くの方に八王子市のバラと美容に魅力に興味を持って頂き、市民の活動の一助になる活動を目指した。

② 実施報告

1) 今年度は、マップの更新を行った。昨年の発表で示したアンケート結果より、よりマップを活用してもらうために、散歩をした疲れをいやすために、足湯や温泉を掲載した。また市外から来られる方の多い高尾山のふもとにあるホテルも掲載した。

さらに足湯等でできるセルフ足つぼマッサージの手法の説明動画を作成しYouTube 動画で配信、その動画のURLのQRコードを発行し掲載した。

ローズマップ裏面には、掲載施設の情報（位置情報もしくははガーデンの状態がわかるインスタ）がわかるQR使用できることを想定し、NPO フェスティバルでは、オリジナルローズの染型を制作し、ローズの型染め手ぬぐ

コードを掲載した。

2) 地域との連携：ガーデン整備にご協力頂いているローズパートナーの方々とより強くつながるために、短大のカレッジローズの挿し木苗をして頂き、自宅で育てていただく苗の里親企画を行った。またより多くの方とつながるためにNPO フェスティバルでバラに興味をお持ちのかたで、Yamatan-belle-rose 里親会の公式ラインやインスタなどのSNSでつながった方にも苗をお分けし、生育状況の投稿や、本学の非常勤講師で、八王子花の音園長のバラ講座に情報等をお知らせすることでより地域の方と本学バラ園とのつながりを強化に取り組んだ。現在公式ラインでは24名に入って頂き質問や苗の状況を投稿頂いている。インスタでは42名にフォロー頂き、苗の写真をタグ付けで投稿していただいている。

3) ローズとインナービューティーと伝統美：本年度の企画の特徴としては八王子市の「美の文化資源」にも注目をした。食に関する事項では、八王子市には古くから和菓子店が多く存在している。特に一つ一つ手で作られる上生菓子は、日本の美といっても過言ではない。今回八王子に工場のある榮太樓總本舗様に協働頂き、メンバーでデザイン案を出し、本学のカレッジローズ「mia-aiko rose」をイメージした上生菓子を学苑祭用として制作頂いた。（写真1）NPO フェスティバルでは市販されている「ど楽ど楽もち」にバラのプリントをいたものを制作いただいた。また八王子市には絹の道もあり織物の歴史、また染の歴史も古い。八王子織物工業組合へ伺い、織物や染の歴史を学び織物の体験をし、八王子の織物についての理解を深めた。その上で、八王子型染めでは染工房かほり様のご協力を頂きバラの染型を制作し、手ぬぐいを制作した。これはローズマップとも相性が良く、足湯等で

いのワークショップを行い、その手ぬぐいとともにマップをお渡しした。

③事業を実施した感想

本年度は新たな方向性でローズによる活動を続けて行うことができた。昨年のアンケート結果からの活性化に向けた活動として足湯のマップへの掲載、アンケートの自由記述にあった苗の配布については、里親会として実現で、市民の方と新しいつながりを持つことができた。

しかし事業を振り返り、地域の個人邸のガーデンでは活動を停止される方も出てきた。そのため2件掲載ガーデンが減ることになった。実際八王子市は広く私たちの活動ではガーデン全てを確認掲載することが難しいことが分かった。学生発表会では市長への提として市民が自らオープンガーデンの登録をする制度を提案した。

今後は後輩にこれらの活動を継承し、美とローズを融合させたイメージしやすいテーマで企画を立て、地域活性化につなげたい。

謝辞

最後になりましたが、今回の企画の機会をくださいました、大学コンソーシアム八王子関係の方々、花の音園長下村先生およびローズパートナーの方々、榮太樓總本舗様、グラングルメ株式会社様、染工房かほり様、森のこびと様、八王子交通事業株式会社様、京王観光株式会社様、八王子観光コンベンション協会様に心より感謝申し上げます。

(写真) NPO フェスティバルでの活動



日本遺産『桑都』と『織物』を活かす、持続可能なまちづくり ～親子・学生との連携により『桑都』八王子への関心を一層深める試みの展開～

団体名 帝京大学 経済学部 観光経営学特殊講義 (桑都観光)

代表者名 小林美瑠

1 事業内容

八王子の観光・まちづくりの資源として日本遺産『桑都』とその成り立ちを支える『織物』に注目し、持続可能なまちづくりを進めることを目的に、「①関連事業者など現在の担い手の意向を尊重して連携すること、②住民・来訪者、特に若年層＝未来の担い手の『桑都』『織物』への関心を深めること」を着眼点とし、「親子・学生との連携により『桑都』八王子への関心を深める」ことを長期的なテーマとして取組んでいる。2023年度、親子モニター体験(多摩織伝統工芸士さんに習う手織り、学生による既存の昔の八王子商店街スゴロクの活用)を行った。今年度は、「子ども達や親世代の関心を一層惹き付ける親子体験の展開」を課題として8月に多摩織工芸館で「夏休み親子体験」を企画・実施した。『織物』について工芸士さんに習う手織体験を継続し、『桑都』への関心喚起に向けては、学生目線と感性を活かし若者の気を惹くような体験ツール(クイズスゴロク、桑のおやつ・栞)を開発した。情報発信はインスタグラムを利用した。スゴロクは親子体験等での評価をもとに修正後、八王子織物工業組合で印刷し、完成したスゴロクを1月に「桑都フェスタ2025」で利用・評価した。

2 実施報告

1)告知:日本遺産「桑都物語」推進協議会の協力で、ポスター・チラシを計49施設に設置、協議会HP・広報はちおうじ等への掲載を行うとともに、独自のインスタを開設した。申込みにグーグルフォームを利用した。

2)体験ツールの開発:(1)桑都・八王子クイズスゴロクは、「織物」と「桑都・八王子のまち」との関わりについて「歴史」から「現在・未来へ」の展開を辿るストーリーで構成し、クイズカード24枚を組合わせてより多くの内容や図・写真を盛り込んだ。調査に八王子市郷土資料館や日本遺産推進担当者の丁寧なご協力ご助言を頂いた。(2)おやつは、市販の桑の和菓子より子どもも食べやすいように、桑パウダーを用いたプリンを試作した。

おやつを食べながらスゴロクを振返ったり持帰れるツールとして「桑の栞」を作り、クイズ(スゴロクから抜粋)とプリンレシピを掲載した。

3)情報発信:4回投稿しフォロワーは7人だった。

4)親子体験の実施:織物組合の協力のもと、8月18日に親子体験を実施し、親子16組33名が参加した。多摩織工芸館で工芸士さんに習う手織と学生によるスゴロクを行った。併せて将来手織からまち歩き・食べ歩きに繋げる試みとして、多摩織工芸館向かいのまちはぐでプリンと栞を提供した。

5)桑都フェスタ2025でのスゴロク活用:親子体験での評価や学生・家族による評価をもとに修正・印刷し、完成版を桑都フェスタ2025のワークショップ会場で1月12日に活用した。小学生と加形式で小学生と親(30～40代)のほか50代以上10名を合わせた計34名が参加した。

6)アンケート:有効回答数は、親子体験で子16・親16、桑都フェスタで子17・大人17である。親子体験は総じて好評で、手織体験は「自分で織れた」ことが子に、「工芸士さんに習えた」「親子で体験できた」ことが親に、特に高評価だった。



▲ポスター・チラシ



▲桑の栞(両面)



▲手織:スゴロク・おやつの様子

スゴロクは、親子体験・桑都フェスタとも「楽しかった」「またやりたい」が年代を問わず高評価だった。「学生の運営」「スゴロクを通して桑都や織物への関心が深まった」「写真や説明に興味・理解が深まった」はスゴロクのみ行った桑都フェスタは親子体験よりやや低評価で、スゴロクのみを実施する場合の運営の工夫が課題である。また、写真や説明は低学年には低評価でやや難しかったが親や学生と一緒に考え盛り上げる姿が見られた。日本遺産「桑都」の認識に関しては、親子体験・桑都フェスタとも「織物のまち」「桑都の呼び方」の認知度(得点)よりも「体験を通して日本遺産桑都に関心を持った」「資料館等にも行ってみたい」の得点が高い傾向がみられ、体験を通じた桑都への関心の向上が伺われる。また、低学年は桑都フェスタより親子体験の方が「織物のまち」の認知度が高く、手織体験が織物への関心喚起に繋がったことが伺われる。

3 事業を実施した考察・展望、感想等

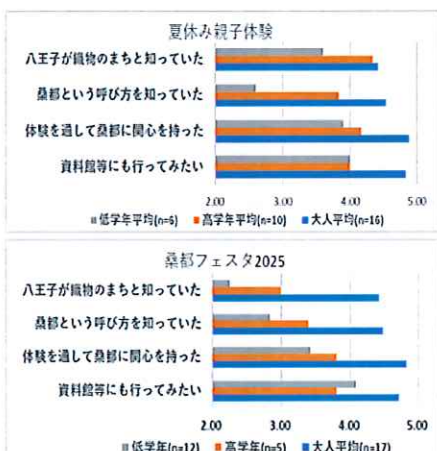
1) 考察と展望：アンケート・自由記述や参加者の様子、関係者と協力した準備・実践等を通して、(1)低学年も含む親子の体験が、織物への関心喚起・桑都への関心向上に繋がったことから、今後も手織とスゴロクを組合せ低学年を含めた親子体験の継続が有効と考えられる。当初からの目的、着眼点、テーマを重視し、織物組合・工芸士さんとの意見交換・連携を一層深めながら展開したい。おやつも好評で展開が望まれるが、まぐはぐ以外の関連施設・事業者等への展開は今後の課題である。(2)桑都フェスタで、スゴロクを学校等でも利用したいとの声や、市役所の方等から学校での実施検討、桑の給食とのコラボ、南口商店街再開イベントでのスゴロク活用等へのご意見を頂いた。今後、学校などで学生が関われる内容を

検討し、スゴロク運営の工夫として事前・事後の解説等を含む楽しいプログラム等を企画したい。

2) 感想・反省等：親子体験・桑都フェスタともに、参加者は年代によらずかなり盛上がり、学生との交流も楽しんで下さった様子がとても嬉しく、地域活動の楽しさを実感した。工芸士さんに習う手織は、低学年にも「本格的な体験」が深く心に残っていた様子が印象的であり、担い手の方達と直接交流する体験機会の重要性を再認識した。なお、子どもによっては出来上りの織り幅が短く残念との声も一部あったため、幅が短くても良い作品(例：コースター等)を工芸士さんと相談して対応したい。スゴロクについて、多くの方に興味深いとお褒めの言葉を頂いたのも大変嬉しい。郷土資料館や日本遺産協議会のご協力で調査や資料入手を充実できたからこそだと思い、現場の方達のご協力を頂くことの大切さ、十分に調査して良い成果品を仕上げることの大切さを改めて実感した。情報発信は当初の計画通りに実施できず、フォロワー数も少なく有効活用できなかったことが反省され、今後の課題である。



▲開発した「桑都・八王子クイズスゴロク」



▲日本遺産「桑都」の認知に関する評価

アンケート結果▶ (大変そう思う5点~全く思わない1点とする5件法)

	夏休み親子体験					桑都フェスタ2025					凡例
	親平均 n=16	高学年 n=10	低学年 n=6	子平均 n=16	全平均 N=32	大人平均 n=17	高学年 n=5	低学年 n=12	子平均 n=17	全平均 N=34	
親子体験全体について											
親子体験に来て良かった	5.00	4.83	4.90	4.88	4.94						
また親子体験に来たい	5.00	4.83	4.70	4.75	4.88						
保護者から見てお子様は満足していたようだ	5.00										
手織体験について											
伝統工芸士さんに習って良かった	5.00	4.83	4.80	4.81	4.91						
自分で織れて良かった	4.88	5.00	5.00	5.00	4.94						
親子で体験できて良かった	5.00	4.50	4.30	4.38	4.69						
織物に以前から興味があった	4.12	4.17	3.90	4.00	4.06						
体験を通して織物に関心が深まった	4.88	4.17	4.70	4.50	4.69						
織物をまたやってみたい	4.94	4.67	4.90	4.81	4.88						
織物体験を周囲におススメしたい	4.88	4.50	4.10	4.25	4.57						
スゴロクについて											
スゴロクをして楽しかった	4.88	4.83	4.90	4.88	4.88	4.82	4.80	4.75	4.76	4.79	
大学生と遊べて楽しかった(運営は問題なかった)	5.00	4.83	4.80	4.81	4.91	4.82	4.40	4.50	4.47	4.65	
スゴロクをまたやりたい	4.82	4.67	4.80	4.75	4.79	4.76	4.80	4.83	4.82	4.79	
スゴロクを通して桑都や織物への関心が深まった	4.94	4.17	4.60	4.44	4.69	4.82	4.00	3.92	3.94	4.38	
クイズの難易度(1易しい 3丁度良い 5難しい)	3.88	3.67	3.10	3.31	3.60	3.41	2.60	4.08	3.65	3.53	5.00
写真や説明に興味があった。理解が深まった	4.76	4.17	3.56	3.80	4.28	4.65	4.00	3.92	3.94	4.29	4.75以上
スゴロクが販売されていたら購入したい						4.06	4.00	4.08	4.06	4.06	4.50以上
日本遺産「桑都」について											4.25以上
八王子が織物のまちと知っていた	4.41	4.33	3.60	3.88	4.14	4.41	3.00	2.25	2.47	3.44	4.00以上
桑都という呼び方を知っていた	4.53	3.83	2.60	3.06	3.80	4.47	3.40	2.83	3.00	3.74	3.75以上
体験を通して日本遺産桑都に関心を持った	4.88	4.17	3.90	4.00	4.44	4.82	3.80	3.42	3.53	4.18	3.50以上
資料館等にも行ってみたい	4.82	4.00	4.00	4.00	4.41	4.71	3.80	4.08	4.00	4.35	3.50未満

Made in Hachioji みやげ

団体名 サレジオ高専 ビジュアルコミュニケーション研究室

代表者名 有賀一史

①事業内容

同研究室にて昨年度より行われてきた八王子みやげの研究を継続して取り組む。Made in Hachioji みやげの事業を通して、八王子の地域活性化および、伝統産業の一つである織物の魅力を伝える商品の研究を行う。今年度は八王子の伝統や祭りをモチーフにした親しみやすい商品デザインとパッケージデザインを提案し、商品化する。みやげの製作後、各種イベント（サレジオ高専学園祭、ジャパングリエーションなど）に出展し、八王子織物の知名度の更なる向上を図り、地域活性化に繋げる。

②実施報告

2-1 実施の流れ

主に、学生がデザイン、パッケージ制作を行い、製品の製造は八王子織物工業組合員 4 社に協力いただいた。実施の流れとしては、5月に組合との打ち合わせがありそこで商品の方向性をきめた。その後研究室内で話し合い、Matsuri という共通のテーマをきめ、それを基に各自でデザイン展開を行った。統一感のある商品展開と、敷居の高い伝統工芸品を親しみやすくすることが目的である。8月頃まで組合とやり取りをしながらデザインを考えた。8月下旬に八王子 OPA で八王子学生委員会主催のイベント「体験！発見！学園都市 はちおうじ」でのアンケート結果もデザインの参考にした。9月には製品が完成し、その後パッケージデザインなどのブランディング展開を開始した。10月から1月にかけてサレジオ高専育英祭、JFW JAPAN CREATION (図1)、八王子いちょう祭り(図2)、千百年を紡ぐ八王子織物(図3)の4つのイベントに出展した。ここでは主に製品やパッケージなど広告宣伝物の展示、それに関するアンケート調査(価格、ターゲットなど)を実施した。イベントによって客層も違い、様々な地域の方とコミュニケーションを取ることができた。その後、パッケージ制作も完了し、八王子織物工業組合アンテナショップベネックでの販

売の準備も整った。今後の展開としては、協力企業や組合の販売計画に合わせてパッケージやデザインデータを納品する。



図1 JFW JAPAN CREATION 展示会場



図2 八王子いちょう祭り展示



図3 「千百年を紡ぐ八王子織物」展示

2-2 最終提案物

<有限会社大原織物×峰岸>

「織物で日常生活を豊かにする」をコンセプトに、八王子いちょう祭りをテーマにしたマフラー、日

傘、アームカバーを提案。いちじょうの葉脈や幹を模した柄で祭りの雰囲気表現し、マフラーと日傘は高級感ある配色、アームカバーは四季に合わせた色合いにしている(図4)。



図4 峰岸最終提案物

<内田長織物有限会社×有賀>

「祈りを届ける八王子織物」をテーマに、八王子七夕まつりをモチーフにしたストールとネクタイをデザインした。ストールはシルク的光沢感を生かし、ネクタイは金銀の笹の葉で高級感を演出。パッケージは短冊形で、ユーモアのある願い事を添え、若者向けに豊富に展開した(図5)。



図5 有賀最終提案物

<岡村織物有限会社×楠本>

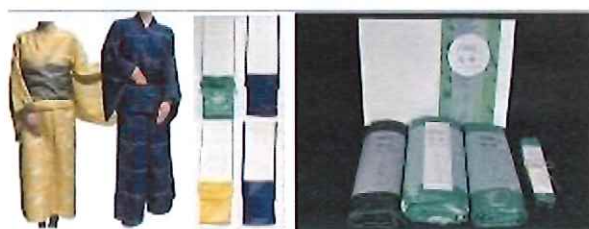


図6 楠本最終提案物

八王子の四季の祭りをテーマにした織物柄をデザインし、現代的な浴衣とショルダーバッグを製品化。「四季祭絵巻」ブランドで展開し、浴衣は洋服として着用可能。余った布でスマートフォン用ショルダーバッグも制作した(図6)。

<田口織物工場×石田>

八王子の祭りをモチーフにしたハンカチをデザインし、「手に取る祭り」をコンセプトに Made in Hachioji みやげ商品を目指した。伝統模様を規則正しく配置し、ハンカチの切れ端で作った巾着はセット販売を考慮し、持ち運びやすくスマホも入るデザインにした(図7)。



図7 石田最終提案物

③事業を実施した感想

今回の事業では、目的としていた販売まで、準備の段階ではあるがたどり着くことができた。それに加え、様々なイベントに参加し、八王子織物の魅力を多くの人に伝えられたと考える。モノづくりとデザインについて、製造業者との連携の難しさを学ぶことができた。しかし今回の事業を通して、様々なイベントに参加し、若い人や外国人などさまざまな方々に織物やデザインについて興味を持っていただけた。特に学生が行っているという事に多くの関心を得られた。このことから、本校の学生が八王子織物に関わることでその知名度アップにつながると思われたため、今後も継続していきたい。

立候補者と有権者の政策対話を促進する選挙ゲームの開発

(若者の政治への関心を高める取り組み)

団体名 法政大学 共創デザイン研究室

代表者名 山崎 梨紗

① 事業内容

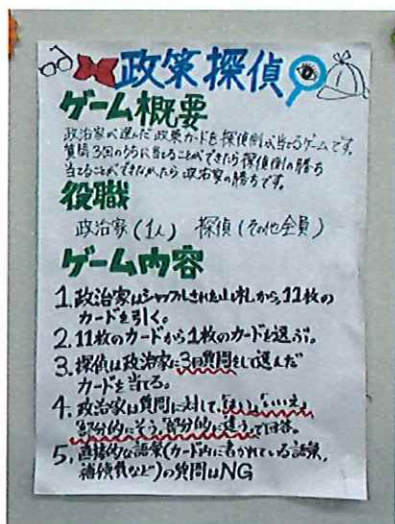
若者の政治への関心を高める方法として、カードゲームの制作を行った。各イベントに出展し、来場者には選挙ゲームを体験してもらうことで政治に関する対話が促進されたかゲーム後アンケート用紙を一人ずつに配布し検証を行った。ゲームのルールは、まずプレイヤーは政治家と探偵に分かれる。政治家は場にある複数枚の政策が書かれたカードから一つ選び、そのカードを探偵側が当てるゲーム。探偵側は政治家が選んだカードを当てるために3回質問できる。政治家は探偵側からされた質問に対して、「はい」「いいえ」「部分的にそう」「部分的に違う」と答えられるものとする。探偵は限られた質問数の内に政策カードを当てることができたら探偵側の勝利、当てることができなかつたら政治家の勝利となる。

② 実施報告

2024年に10月6日に八王子市で開催された「はちおうじNPOフェスティバル」では32名、「法政大学多摩祭」では37名、計69名の方々にカードゲームを体験してもらった。

体験終了後のアンケート結果によると、63人が楽しかったと回答し、残りの6人は少し楽しかったと回答した。また、ゲームの難しさについての質問では約半数がちょうどよかったと回答し、簡単だと答えた意見よりも、難しかったと答える意見の方が多かった。さらに、またこのゲームをやりたいかという質問では9割近く、またやりたいと回答した。

一方でこのゲームの感想や改善点を問う質問では、「子どもができるような工夫があるといい」「漢字の読めない人への工夫が必要」といった小中学生への配慮が必要であるという改善点が出てきた。また、探偵側が政治家へ質問する際の、質問を考えることが難しいと感じたという意見が散見された。



※イベントの際に用いた説明



※2024年9月21日に法政大学多摩祭で実施した際の様子

③ 事業を実施した感想

実施した者として感じたことは、イベントに来てくれた方と本ゲームを通じて、自然と打ち解けることができたように思える。

冒頭でも述べたように本ゲームの目的は、若者の政治に対する関心を高めることである。制作者である私たち自身、政策に対して堅いイメージがあり、興味関心を向けづらい対象であると感じていた。実際に遊んでみると、他者とコミュニケーション取る楽しさが勝り、堅い印象を和らげて、関心を向けるきっかけになりうるのではないかと感じた。

今後の展望については、アンケート結果よりゲームを難しいと思った人がある程度いたことから、今後さらにゲームを簡単にしていく必要があると考えた。

認知的流暢性の高さは、好感を抱いてもらうのに不可欠であり、政策に対して関心を持っていない若者にとって、ゲームが難しいと感じることはマイナスな要因になりかねない。今回制作したカードゲームには、ルールブックも制作し、それを各テーブルと法政大学多摩祭では壁に展示していた。しかし、そのルールブックが全て文字で書かれていることから、参加者はゲーム理解が難しくなってしまったのではないかと考える。そのため、次はイラストをベースにするなど、文字だけではなく視覚的にわかりやすいものを準備する必要があると考えた。

またこのゲームをやりたいかという質問には9割近い人がまたやりたいと回答していたことから、カードゲーム形式であり数分で遊べるルールであったからではないかと考えた。

政治に関するゲームにおいて、カードゲームにすることで、若年の興味を引くことができ、さらに今後も遊んでみたいという回答もあったことから、一定の効果はあったと思える。今回様々な年代の人たちに体験してもらったが、まだまだ参加者が多いとはいえないため、今後も継続してイベントにて出展をし、さらに参加者からの声を集めていきたい。継続して参加者の声をもらうことで、面白さとわかりやすさの両方を磨くことができると考える。

今後は、現在のカードゲームの楽しさや体験のしやすさを維持しつつ、ゲームルールやルールブックを改善しより認知的流暢性の高いものにしていきたい。

また、もともと政策に関心のない人でも何回かプレーするうちにある程度絞り込み方を理解していたように感じる。そのため、今後は、政策の種類を増やすことで、さまざまな政策について関心を持てるようにしていきたい。



※本ゲームで用いた政策カードのイメージ